

# 素 顔 拝 見



小児歯科・障がい者歯科  
助教

岩瀬 陽子

平成24年4月より鹿児島大学より異動し、小児歯科・障がい者歯科に在籍しております岩瀬陽子（いわせようこ）です。このたび、せっかくの機会を頂きましたので、簡単に自己紹介させて頂きませう。しばしお付き合い下さい。

出身は愛媛県新居浜市で、平成9年に九州大学歯学部卒業後、同大学の小児歯科学教室に大学院生として入局し、研究テーマは小児の顎口腔機能で、直接の指導教官が現早崎教授でした。大学院終了後も数年は小児歯科に在籍しておりましたが、平成17年に鹿児島大学へと異動し、その後は歯科麻酔科にお世話になりました。全国的にも大学病院の小児歯科というと障害者を含め基礎疾患を持つ患児の受診が多く、全身管理を考える上では歯科麻酔科にて一から学ぶことが必要不可欠だと考えた上での異動であり、歯科医師9年目からの新たな挑戦でもありました。タービンもエンジンも握ることはなく、今まで触った事のなかった喉頭鏡、気管内チューブ、留置針と格闘の日々。それまで培ってきた歯科医師としての技術はほぼ無用の世界であり、苦労も多かった分、今まで学び得なかったかけがえのない知識や技術を習得できた7年間でした。とは言うものの、小児歯科にも出入りさせて頂き、口唇口蓋裂専門外来の一員として口唇口蓋裂児のホッツ床や術前外鼻矯正装置(NAM)の製作・調整にも携わっておりました。昨年、新潟大学異動後は再び小児歯科所属となり、九州大学小児歯科と鹿児島大学歯科麻酔科で学んだ事を合算し、私の中での集大成となりつつある状況です。

ところで、鹿児島大学在籍は7年と言いつつも、正確にはそのうちの1年7ヶ月に空白期間があります。主人のアメリカ留学に同行するために一旦退職したのです。アメリカはテキサス州ダラス北部のリチャードソン市に在住しました。テキサスと言えば、砂漠・サボテン・荒野といったイメージでしたが、ダラスは商業・工業都市であり想像以上に「都市」でした。またリチャードソンはダラス・フォートワース都市圏の衛星都市の一つで、土地は広く緑豊かで、治安のよい場所でした。私は小さい頃よりピアノを習っていたこともあり、クラシック音楽のライブが好きなのですが、一番の思い出は2009年に行われた第13回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールです。辻井伸之さんと言われるとピンとくる方も多いのではないのでしょうか。このコンクールの行われるパス・パフォーマンスホールはフォートワースにあり、2009年の大会当時、私はほんの(!? )50マイルしか離れていない場所に住んでいたのです。ダラス日本人会の会報でそのコンクールの開催を知り、当時の私は辻井さんの存在を知りませんでした。コンクール最終日に日本人ファイナリストの演奏があることを知り、前日になってチケットを買いに行ったのでした。前日故に会場のチケットブースでの販売のみで、私の購入したチケットは残り席2枚のうちの1枚でした。翌日、コンクール最終日の辻井さんの演奏は、難易度の高い技巧の凝らされた曲を実に爽やかなタッチで軽やかに、そよ風のように弾きこなしており、そして彼を取り囲む聴衆の熱気には圧倒されるばかりで、スタンディングオベーションの長かったこと！演奏終了後、表彰式はまた別にチケットが必要だったため私は帰途に就いたのですが、素晴らしいホールを写真撮影しながら美しい会場を堪能していたその時、会場に戻ってきた辻井さん本人とすれ違いました。「素晴らしい演奏でした！」と声をかけると、恐らく日本語に驚いたのだと思いま

す。びっくりした顔の後、にっこり笑って「ありがとうございます」という短い会話をしました。その30分後、彼は日本中に名を轟かすピアニストになったことは言うまでもありません。今も辻井さんの活躍を見る度に、あのコンクール会場に居合わせることのできた数少ない日本人として、ちょっと誇らしい私です。

\*



組織再建口腔外科学分野・  
助教

船山 昭典

2012年12月1日付けで口腔外科系歯科助教（口腔再建外科）に採用いただきました、組織再建口腔外科学分野の船山昭典です。実はこの「素顔拝見」には2回目の登場です。1回目は平成23年度第1号に掲載されています。短い時間経過していないので正直書くことに困っています。前回と重複してしまいますことをお許しください。2003年3月に33期生として本学を卒業し、同年に大学院生として組織再建口腔外科学分野に入局いたしました。1年間の口腔外科外来、病棟および歯科麻酔科での研修の後、大学院2年目からは口腔病理学分野で口腔扁平上皮癌についての研究をしました。2007年3月に大学院を修了し、同年4月から関連病院である富山県立中央病院歯科口腔外科に出向いたしました。大学院終了後で臨床経験も技術も未熟な自分を、スタッフの皆様が大変やさしく指導してくださいました。救急外来からの呼び出し電話が鳴ったときの、緊張感・不安感は今でも記憶にあります。オンコールは一人体制で（主に2人の歯科医師で分担）、24時間365日であり、そのほとんどが骨折や歯の脱臼などの外傷でした。まずは、翌日の朝までにしなければならぬ緊急処置をおこなうのですが、これが特に不安でした。中央手術室での全身麻酔下での手術および、外来小手術の症例数が非常に多く、たくさんの症例を経験でき私の臨床の基礎となっております。

2008年4月に大学に戻り、口腔再建外科診療室の医員に採用されました。3年間、齊藤力先生（新潟大学名誉教授、東京歯科大学口腔外科学講座客員教授）の教授係を務めさせていただき、顎変形症を中心とする診断・診療（手術）・術後管理までご指導いただきました。2011年4月から特任助教として1年間採用していただきました。2012年4月からは再度、医員となり現在に至っております。

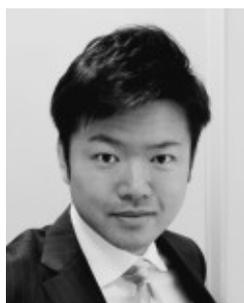
出身は秋田県能代市です。新潟市と同じ日本海に面した平野に位置しています。同じ医局に所属しております三上先生は私の実家の最寄り駅から内陸方向へ電車で5駅、約30分と同郷です（歯学部ニュース、平成23年度第2号の素顔拝見に登場済み）。趣味は、ここ数年は就寝前の読書と鬼平犯科帳（コミック、小説、DVD）です。

なかなか筆が進まないのが、新潟から秋田までの道のりの名所（羽越線）をご案内させていただきます（いなほの車窓から）。以前は、大阪―青森を結ぶ特急白鳥（国内昼行列車の最長距離と最長時間を誇ったが2001年3月2日を最後に遂に廃止）がありましたが、現在は秋田―新潟間の特急いなほであります（以前は一部で青森まで）。座席Aに座ると夏は美しい日本海、冬は荒れた日本海を楽しめます。新潟を出発するとまずは豊栄に停まります。豊栄駅停車時に進行方向左手に見える、お忍び居酒屋だんだんが有名であります。豊栄在住の先輩にきいてみましたが行ったことはないそうですが、やはりインパクトは相当あるようです。次の停車駅は新発田であります。新発田農業高校の所有する水田を過ぎるとまもなく新発田駅に到着です。左手に見える県立新発田病院およびリウマチセンターが特徴的であります。次は当分野の長谷部先生の出身地、中条です。中条駅停車時に左手に中条中央病院を見ることが出来ます。チューリップの球根生産量が日本一とのこと。黒川村と合併し、胎内市となっております。次は旧荒川町の坂町駅で、山形県米沢駅までの米坂線の終着駅です。さらに北上し旧神林村の神林球場を左手に見ると、もうすぐ村上駅停車です。瀬波温泉、三面川の鮭・鮎、マイナーなところでは粟島への玄関口です。村上駅を出るとすぐに、交流・直流の電源切り替えがあり、エンジンは停

止、室内は非常灯のみで真っ暗になります。このあとは、ほぼ平行に走ってきた国道7号線とわかれ、国道345号と並走し左手間近に笹川流れ(日本海)を楽しむことができます。左手の山北徳州会病院をすぎると、まもなく府屋(ふや)です。旧山北町の玄関で、海の後ろには熊が出没する山々がそびえております。マタギを題材とした、熊谷達也のマタギシリーズ三部作の1作目「相剋の森」の舞台となっております。このあとは山形県に入りあつみ温泉なのですが、そろそろ字数がオーバーですので今回はここまでとし、新潟県バージョンとさせていただきます。

今後は微力ながら当科の発展にお力添えさせていただくとともに、新潟大学歯学部発展に貢献してまいりたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

✦



微生物感染症分野・准教授  
小田真隆

平成25年4月より微生物感染症分野でお世話になっております、小田真隆です。私は、長崎県佐世保市の出身で、高校は、ノーベル化学賞を受賞された下村脩博士の母校である佐世保南高等学校です(高校の近くにテレビショッピングでおなじみのジャパネットたかたの本社があります)。高校を卒業後、徳島文理大学薬学部に進学し、大学、大学院、助教、講師と約17年間過ごしました。

徳島県は、四国地方の中でも知名度が低いため、どのような所かご存じない方がほとんどではないかと思えます。そんな徳島県に17年も住んでおりましたので、育ててもらった恩返しと思い徳島についてご紹介したいと思います。徳島県は四国の中で東側に位置し、新潟県の1/3程の広さです。気候は温暖で日照時間が長く、とても住みやすい地域です(新潟県よりも風が強い気がします)。四国地方の他県よりも関西地方との繋がりが強

く、言葉や方言は関西弁に似ています。徳島で有名なものと言えば、阿波踊り、鳴門の渦潮、わかめ、鳴門金時と呼ばれるサツマイモ、祖谷のかずら橋です。徳島という名前は聞いたことがなくても阿波踊りは聞いたことがあると思います。阿波踊りは徳島市で毎年8月12日から15日までの4日間開催されますが、街では年中阿波踊りの音楽やリズムがどこからか聞こえてきます。鳴門大橋の車道の下には、遊歩道があり、鳴門の渦潮を海上45mのガラス床から覗き込むことができます。高所恐怖症の方には厳しいかも…。祖谷のかずら橋とは、県西部にあるサルナシなどの葛類で編んだ原始的な吊り橋で、川面からの高さは14mあり、敷網でつながれた横木と横木の間は10センチほど離れているので、足元にのぞく川面はスリル満点です。私の後輩は、橋の上ではしゃぎすぎて足を踏み外し、ひどい擦り傷を負っていました。観光などで行かれた際は、ご注意ください。徳島で私がお勧めする食事は、鳴門の渦潮でもまれた鳴門鯛をふんだんに使った釜めしと徳島ラーメン(醤油豚骨ベースのスープに甘辛く煮た豚バラ肉が入っています)です。また、徳島は、オロナミンCやポカリスエットで有名な大塚製薬や青色発光ダイオードを開発した日亜化学の発祥の地であること、さらにエフェドリンを発見した長井長義の出身地であることから有機合成や製薬などの研究が盛んな地域です。

私の研究活動は、大学2年生の時、私が所属していた空手部(古流剛柔流)の先輩に「ちょっと人出が足りんから研究を手伝ってくれ!」と言われて、櫻井純先生が主宰する微生物学教室に遊びに行ったことがきっかけでスタートしました。先輩方と研究を行っていく中で、微生物学、特に細菌毒素の研究に興味を持ち、これまで毒性発現機構の解明や阻害剤の開発を行ってきました。現在は、企業と協力し、抗生物質に依存しない新たな感染症治療薬の開発を行っております。また、櫻井先生には硬式テニスの楽しさを教えていただき、月曜日から土曜日は研究、そして日曜日にテニスという生活を何年も過ごしておりました。最近は、なかなかテニスをやる機会に恵まれておりませんが、ぼちぼち始めたいと考えております。

新潟大学に来てまだ2ヶ月ですが、寺尾先生を始め多くの方々のサポートのおかげで、とても充実した日々を過ごさせていただいております。新潟大学では、先生方との絆を大切に、感謝の気持ちを常に抱き、情熱を持って頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

＊



冠ブリッジ診療科・助教

高野 遼 平

2013年4月より冠ブリッジ診療科の助教を拝命しました高野遼平です。この度、素顔拝見の原稿依頼を受けましたので、自己紹介をさせていただきます。最初に、このような機会を与えてくれた先生方に心より御礼申し上げます。

私は昭和59年1月に新潟県新潟市にて生まれ、3人兄弟の真ん中で姉と妹に囲まれ育ちました。生まれも育ちも新潟であり、慣れ親しんだこの街が非常に気に入っております。新潟に県外からいらっしゃった方は「風が強い」、「晴れの日が少ない」、「冬は寒い」などと過ごしにくいと思われることが少なくないようですが、四季を感じられる海と山に囲まれた新潟は非常に風情があり良き土地です。海の幸、お酒などがおいしい点も魅力の一つです。

小学校よりサッカーを始め、中学、高校、新潟大学歯学部でもサッカー部に所属していました。元々器用でセンスがあるタイプではないので、気合いと根性で泥臭く頑張るタイプであり、今の歯科医師人生も似ているように感じています。昔から運動が非常に好きであり、大学時代からはスノーボードやサーフィンやラグビーも始めました。ある土曜日には朝サーフィン、午前中ラグビー、午後からサッカーというように運動漬けも少なくありませんでした。大学時代は頭より体を鍛えていた感が否めませんでした。良き仲間との出会いもたくさんあり、非常に楽しい大学生活

を送りました。特に、サッカー一部の仲間と共に過ごした日々は良い思い出です。最近はあまり時間が取れず、運動ができていないのですが、時間を見つけて久しぶりに部活に顔を出すなどしたいと思っています。海や山などの自然が好きなので、カメラを持ってドライブに出かけたり、温泉に行くことが最近の趣味となっておりますが、やはり昔から運動が生活の一部となっていたせいか、運動して汗をかくことでリフレッシュできる自分がいます。

卒後は会津中央病院歯科口腔外科と新潟大学冠ブリッジ診療科にて半年ずつ研修歯科医をやり、新潟大学生体歯科補綴学分野の大学院に進学しました。学生時代に特に苦手だった補綴を勉強したいという動機があったことが進学理由の一つでした。研修医時代に初めて新潟を離れ、福島県の会津中央病院に行きましたが、ここでの2週間の救急救命研修が当時の私に大きな影響を与えました。救急車にて運ばれてくる患者様を寝る間も無く、24時間医療を提供する救急救命の先生に感銘を受けたと同時に、医療従事者として歩む上での自分の甘さを痛感したことを昨日のこのように覚えています。世の中にこんなにも一生懸命に患者様のために仕事をしている人がいることを若い頃に知れたことは非常に良かったと感じます。また、冠ブリッジでの研修も壁にぶつかることばかりでしたが、元々技工が好きであったということもあり、毎日が充実して楽しかったです。うまい先生の模型や印象を見て、自分もできるようになりたいと毎日切に願い練習→診療を繰り返す七転八倒の研修医時代でした。

大学院生活に関しては、前回の歯学部ニュースの「大学院終了にあたって」原稿を書かせて頂きましたので詳細はそちらを参照して頂ければと思っておりますが、魚島教授をはじめとする指導して下さった先生方のおかげで有意義な大学院生活を過ごすことができました。今後の礎を築けたと思っております。

仕事の楽しさを教えてくれた先生方に巡り合えたおかげで、今の自分がいると思えます。ある先生が「30代をいかに過ごすかが自分の人生にとって非常に重要である」というアドバイスをしてく

れました。今年で30歳となる私は目標を明確にし、努力を惜しまず精進したいと思っております。至らぬ部分が多々ございますが、今後ともよろしくお願い致します。

＊



予防歯科学分野・助教

ティーラサック  
ダムロンルンルアン

2013年4月1日より予防歯科学分野において助教を務めさせていただいておりますティーラサックと申します。この素晴らしい機会をいただきとても光栄で、前田教授歯学部長先生をはじめ学部の皆様に厚くお礼申し上げます。

1999年タイの一番歴史のあるチュラロンコーン大学歯学部を卒業し、同年日本の文部科学省の奨学金をいただき、国費留学生として来日しました。2000年より東京医科歯科大学の博士課程に入り、2004年まで春日井昇平教授のもとでお世話になりました。2004年3月大学院を修了したのちタイに戻り、タイの東北地方にあるコンケン大学歯学部口腔診断学分野に勤務しております。

帰国後9年あまり(2012年の秋)、突然コンケン大学歯学部の国際係を担当する副学部長先生から「日本に一年間研究や教鞭を執らないか」と勧められ、私は「ぜひ行かせてください」と即答しました。日本留学時代より日本のことがとても気に入り、どこに行くにも便利で、街で会う見知らぬ人達もとても親切です。日本にご縁があつてか2011年の秋、留学時代に知り合った日本人女性と結婚しました。またいつか日本で生活できることが私の望みでもありました。

新潟赴任前は日本海側での生活は何かと忍耐力が必要であると言われ、心配でしたが住み始めてみると新潟の方々の温かさやきさくに声をかけていただき寒さも吹き飛びました。私は語学勉強が大好きで特に日本語の「尊敬語」「丁寧語」「謙讓語」といった日本語の素晴らしさに感動し、言葉

だけではなく「和の心」も身につけたいと思えます。そして日一タイ125周年以上の友好関係をより一層深められるよう、私は日本人にタイ「微笑みの国」の美しい文化や美德のこころもお伝えできるよう貢献したいと思えます。

さて、現在に至るまでの研究や臨床歴を簡単に話させていただきます。学部生時代より皆様と同様、歯や口腔健康は非常に重要だと感じておりました。当時、天然の歯と同じ発生メカニズムで歯や口腔内組織が(In Vitro での培養で)できることが夢でしたが実際はバイオデンタルインプラント(埋入する時に培養したセメント質芽細胞を用いるインプラントの事)を植立する方法がまず先決でした。大学院生時の研究で骨芽細胞やセメント質芽細胞の得意的なマーカーの発現程度を研究しました。それが成功すると次世代のバイオデンタルインプラントとなります。2004年4月タイに帰国し、設備がまだ整っていないため今までの研究を細々と続けながら、一方、日々田舎の高齢患者を治療し歯の問題より口腔粘膜や軟組織の免疫性疾患、特に口腔扁平苔癬(Oral lichen planus)に脅されており非常に深刻に感じられました。全身疾患例えば糖尿病、消化器疾患はこれらの病気に罹りやすく、またある抗高血圧症薬の服用でさらにOral lichen planusに悪影響を及ぼします。ですので口腔内疾患と全身疾患の関連性にとても興味が高く、ROUTINE to RESEARCHつまり「毎日実際に仕事をしている場所で研究をすること」ことがとても重要で毎日このことを心掛けてやっております。

本大学部予防歯科にてお世話になる宮崎先生や小川先生などの研究分野に関連しており研究の共同研究一員の機会をいただき大変感謝いたします。2014年3月末まで最善を尽くし歯周病と糖尿病が関連する遺伝子レベルまで調べるとともに今まで10年間新潟高齢者スタディに少しでも役に立てばと思っております。歯科教育の面でも学生さんに小人数クラスを通して、より英語の専門用語を身につけ、そしてグローバルイゼーションの重要性が身近に感じられるようになっていただけるように頑張りたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。